



# ハートフル多西

令和6年 1月31日(水)  
あきる野市立多西小学校  
校長 小原 太一

## 節目を大切に

教務主任 川島 一真

新しい年がスタートして早いもので1ヶ月がたちました。地震や航空機事故など悲しいスタートとなってしまいました。被災された方や被害に遭われた方々の1日も早い復興を願うばかりです。

2月3日といえば、「節分の日」と思い浮かべる方が多いと思います。私もそうでした。今回、学校便りの巻頭言を書くにあたり自分なりに調べてみたので、ご紹介します。

節分とは「季節を分ける」という意味を持ち、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日の事を指します。その中でも立春は二十四節気において新年の始まりの大切な節目であり、室町時代頃から節分といえば立春の前日だけを言うようになったそうです。

では、どうして豆をまくのかです。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると信じられていてそれを追い払うために豆をまくそうです。邪気(鬼)とは災害や病気、飢餓などを表しているようです。

3学期の始業式で校長先生の話にもありましたが、目標を立てて終わりではなくその都度確認しながら目標達成にむけて頑張っていってほしいと思います。そんな節目の一つとして節分の日目標を思い出してもらえたら嬉しいです、次の学年に向けて力を蓄える3学期にしてほしいと考えています。

1月20日(土)には、菅生歌舞伎一座の皆様、尾崎はやし保存会の皆様、瀬戸岡獅子舞保存会の皆様がゲストティーチャーにお迎えして、各学年で伝統文化理解授業を行いました。1年生は缶ぼっくり、2年生はこまやけん玉、カルタなどの昔遊びを、寒い日でしたが楽しそうにやっていました。3年生は繭玉づくり、4年生は体育館で歌舞伎の体験をしました。4年生はこの日だけではなく、事前に菅生歌舞伎一座の皆様に来てもらって何度か体験をしています。歌舞伎のお化粧を実際にしてもらい、とても貴重な経験ができました。5年生はお囃子を体験しました。音楽室からリズムのよいお囃子の音が校庭にも聞こえるほど響いていました。6年生は獅子舞を体験しました。実際に獅子を持たせてもらって動いてみることで、持つ前のイメージとの違いに驚いたことと思います。また6年生は、この日に「親子ギガワーク教室」を行い情報モラルについての授業を受けました。さまざまな活動を通して、多西地区が伝統ある地区であることと同時に、この多西小学校が日々地域の方々に見守られていることを強く感じます。日頃の温かい見守りに感謝申し上げます。

